

現在げんざい

palöfob 私好れるわたしをが

過去かこ

不充足ふじゅうぶん palöfob 私好れぬわたしをが

充足じゅうぶん pelöfob 私好れけりわたしをが

充足引續じゅうぶんのきつぞく pilöfob 私好れてあつさりきわたしをが

未来みらい

第一未来だいいちみらい polöfob 私好れぬらんわたしをが

第二未来だいにみらい pulöfob 私好れてありぬらんわたしをが

假定法かていぽう

現在げんざい

palöfob-la 私好れるからばわたしをが

過去かこ

palöfob-öv 私好れなであらうわたしをが

命令法めいれいぽう

命令めいれい palöfol-öd 汝好れよあんちをが

願望がんぼう palöfol-ös 請ふ汝好れよあんちをが

不定法ふていぽう

現在げんざい

pa'ö'ön 好れるをが

過去かこ

pelöfön 好れけりをが

未来みらい

polöfön 好れぬらんをが

分詞ぶんし

現在げんざい

palö'öl 好れる所でをが ところ

過去かこ

pelö'öl 好れし所でをが ところ

未来みらい

polö'öl 好れぬらん所でをが ところ

次例に掲ぐる前置詞つぎのたがひの次に位つぎをる名詞なごしの人ひと其他た

の動物どうぶつあるときときの前置詞ぜんごしを置き事物じぶつあるときとき

dub の前置詞ぜんごしを置く法ぽうとそ

例れい

五 Pävunom 傷けられをがの彼かれに 三 neffen 敵てき 二 omik. 彼のかれ

四 Pänunom 知らされをがの彼かれに 三 dub にて 二 pened. 手紙てがみ

稽古けいこ 問題もんだい

mekön	作る つく	klub	俱樂部 くらぶ
mesedön	賞與する しやうよ	solat	兵卒 へいそつ
neletön	禁止する きんし	glöb	丸 たま
nu.öa	知らせ し	bonedam	注文書 ちゆうもんがき
pakön	開く ひら	tim	時 とき
lö öa	罪する つが	naköm	{ 来る くる 着る ちやく
segolön	出る で	löfik	愛らしき あい
stabön	設立する せつりつ	nog	未だ いま
stimön	貴ぶ たつと	büfü	以前 いぜん
vunöa	傷く きざつ	pos	以後 いご

1. Bonedams kanoms pamekön volapükiko (u volapüko)
2. Solat at pevunom dub glöb, ab no nog pemesedom.
3. Buk obik poselom omulo in zifs valik Fleuta e Deuta.
4. Esagom obe das binom pasevöl fa lösods valik kels binoms is.
5. Flen obik penunom das dom omik poselom ovigo.
6. Söl löfik e pastimöl, atos pesagos u pelogos fa nek.
7. Li-päpönobs-öv, if äsegolobs-la büfü naköm omik.
8. Klub pestabom in zif at al pakön volapüki.
9. If ilabob-la timi, pened obik pipenom-öv ädelo.

10. Pelogom älelo fa pösods mödumik in gad nilela.
11. Man at löfom neki e palöfom fa nek.
12. Papöuom-öd, if neletom flenis omik sagön velati.

譯文

- 一 注文書の世界語にて作られ能ふ
- 二 是の兵卒の丸にて傷けられざるに未だ賞與せられざりし
- 三 私の書物の佛蘭西と獨逸の皆の町に來月賣られるであらう
- 四 彼の是處に有る所の皆の人に知られて有ると彼が私に言ひし
- 五 私の友人の彼の家の註友人の家來周間賣られるを知らんと知らされ
- 六 愛らしき而して貴べざる紳士是れ(紳士と指す)誰にも言われざりし(評判されぬ)又見られざりし
- 七 若し私等の彼の来る以前に出るからば私等の罪せられしであらう
- 八 俱樂部の世界語を開くは是の町の内に設立され
〔原字 al と(に)と譯を是れ(外の事にあらき開く爲に)の意を含む〕
- 九 若し私の時と持てありしからば私の手紙の昨日書かれしであらう(時と持つとの閑暇の意あり)

十 彼の隣人の園に於て澤山の人に昨日見られり
 士 是の人の誰もと好く而して誰にも好かれる
 三 若し彼の誠と言ふと彼の友人と禁さるからば彼の
 罪せられよ

反 射 法

反射法の人稱代名詞の次に表人代名詞又の ok と置く
 のとぞ

例

vatükob	obi	u	oki
洗ふ私 <small>あは わたし</small>	私 <small>わたし</small>	又 <small>また</small>	己 <small>おのれ</small>
vatükol	oli	u	oki
洗ふ汝 <small>あは ちんち</small>	汝 <small>ちんち</small>	又 <small>また</small>	己 <small>おのれ</small>
vatükof	ofi	u	oki
洗ふ彼女 <small>あは かのをんち</small>	彼女 <small>かのをんち</small>	又 <small>また</small>	己 <small>おのれ</small>
	vatükom	oki	
	洗ふ彼 <small>あは かの</small>	己 <small>おのれ</small>	
	vatükon	oki	
	洗ふ或人 <small>あは かのひと</small>	己 <small>おのれ</small>	
	balvotik		
	互 <small>あひあひ</small>		

無 人 法

名詞の語尾に os の后置字と附加して無人法と爲す

例

etüfos	föfos	
雷 <small>かみなり</small> し	雷 <small>かみなり</small> る	
pasagos		
言 <small>い</small> られる		
vilön	binos	kanön
欲 <small>ほつ</small> する <small>こと</small> ん	有 <small>あ</small> る	出 <small>で</small> 來 <small>き</small> ること <small>で</small>
no	binos	velatik
ぬ	有 <small>あ</small> ら	誠 <small>まこと</small> で

稽 古 問 題

pönitön	悔 <small>くや</small> む	vädelo	毎 <small>まい</small> 日 <small>にち</small>
spatön	運 <small>うんどう</small> 動 <small>どう</small> る	gödel	朝 <small>あさ</small>
memön	覺 <small>おぼ</small> ゆる	gödelo	朝 <small>あさ</small> に
nepükön	黙 <small>もく</small> す	agödelo	今 <small>こん</small> 朝 <small>てう</small>
flotön	凍 <small>こほ</small> る	pozendel	午 <small>ご</small> 后 <small>ご</small>
nifön	雪 <small>ゆき</small> 降 <small>ふ</small> る	vendel	夕 <small>ゆふ</small> 景 <small>けい</small>
lömibön	雨 <small>あめ</small> 降 <small>ふ</small> る	fil	火 <small>ひ</small>
jinön	見 <small>み</small> ゆる	vifo	早 <small>はや</small> く
letön	使 <small>し</small> ひ	kobo	共 <small>とも</small> に

klotön 着る hūfo 前に

1. Effotos aneito ; mutobs mekōn fili agōdelo.
2. Pesagos obe das enifos vüdelo sis vig bal.
3. No äkanobs-öv segolön apozendelo ; if älomibos-la.
4. Klödob das eils at no evalükoms okis; pönols-ö l omis.
5. Klotols-öd olis vifo; osegolobs kobo du düps tel u kil.
6. Li nolols kikod söls at tel no löfoms balvotik ?
7. Li-binos velatik das pönitom elemön domi at ?
8. Espatoms kobo, sis düp balsid gödela.
9. Memob das ebinoms iu Gifu büfo golön al Nagaoka.
10. Nepükol-öd; pükol tu mödo e tu vifo; no kapälöb oli.
11. Sagon das nek kanom kapälön kelos patuvos in buk omik.
12. Jinos das no vilof klödön das eletols obis mogolön.

譯文

- 一 一昨夜凍れり私等の今朝火と作らねばからぬ
- 二 一周間から毎日雪降りしと私に言はれり
- 三 若し雨降りしからば私等の今年后出ること能はざりしであらう
- 四 私の子等の已に洗はざりしと信を汝の彼等と罪せよ
- 五 早く汝等と着よ私等の二三時共に出ませう
- 六 汝等の是の二旦那何故互に好かぬと知るう

- 七 彼の是の家と賣りしと悔むと誠であるう
- 八 彼等の朝十時から共に運動せり
- 九 私に彼等が長岡に行く以前岐阜に有りしと覺ゆ
- 十 黙れ汝の餘り澤山而して餘り早く咄そ私の汝と知了せぬ

(註 汝の咄が分らぬ)

- 十一 誰が私の書物の中に捨られる所の者と誰も知了し能らぬと言ふ

(註 捨られるとの歐洲語の言ひ僻あり是の書物の意味と考へ知るとの意あり)

- 十二 彼女の汝等が私等と去らしめしと信せると欲せぬと見ゆる

第七章

副詞

副詞の本性語と他詞の語尾にのの后置字と附加して副詞と爲し之と用ふるを法とす

例

本性語

nu 今 no ぬ
nog 未 まだ

他詞より變化語
たし へんくわご

名詞	del	日	delo	日
形容詞	blefik	短き	blefiko	短く
數詞	bal	一	balo	一
代名詞	ok	己れ	oko	己に
動詞	pledöl	遊ぶ	pledölo	遊に
前置詞	dis	下に	diso	下に
接續詞	e(d)	而して。與	edo	共に

副詞亦比較格あり即ち定級の語尾に umo の后置字と
よくし また ひかくかく とかはりやうきと こび

結び付て比較格と爲し üno の后置字と結び付けて最
むら つ ひかくかく み とらちせ むら つ さい

大級と爲そ
だいじよ ち

例

定級	ofen	度々
比較級	ofenumo	より度々
最大級	ofenüno	最も度々

重もある副詞と次に掲ぐ
お よくし つざ かい

時

mu	今	füdo	或日(未來)
amu	只今	vöno	或日(過去)

lemu	即時に	leigüpo	丁度
jünu	今迄	otüpo	同時に
legino	始て	lonedo	長く
fino	終に	suno	速かに
büfu	假に	laiko	絶間無く
büo	先頃 其前	pianiko	徐々
bevüno	其間	nesuno	遅く
poso	而後	nog	未
denu	復	ofen	度々
pöto	序に。折に	siso	因て
egelo	いつ	selediko	稀に
evelo	いつも	sotimo	時々
nevelo	いつもかい あんにもかい	tüno	其れから
bletimo	少し前	togo	同時に
foviko	今ま速	ya	最早
fovo	是れから		
		場所	
is	是處	nebo	側

us	彼處 あそこ	deto	右に みぎ
domo	家に いへ	nedeto	左に ひだり
suso	上に うへ	nilo	近所に きんじよ
diso	下に した	lino	周りに まわり
ino	中に なか	semöpo	何處にも どこにも
pö	後ろに うしろ	nesemöpo	何處にもない どこにもない
fö	前に まへ	vätöpo	何處も どこも
seo	外に そと	viso	向ふに むかひ

度^ど

dilo	分て わけ	ti	不日 ふじつ
lölo	皆 みな	töbo	其跡に そのあと
kobo	共に とも	tu	餘り あま
mödo	澤山 たくさん	tu mödo	餘り澤山 あまたくさん
nemödo	少しく すく	umo	より澤山に よりたくさんに
säto	充分 じゅうぶん	üino	最も澤山に もっともたくさんに
so	左様 さやう	vemo	大層 ^ど 甚 ^ど たいそう げんじやう
sovemo	夫程 それほど	za	大抵 たいてい
te	斗 ばかり		

有り様

also	(其儘 ^{そのま} 則ち ^{そのま}) (其通りに そのどほり)	genälo	概 ^{おほむ} に
bido	兎角 ^{どかく}	gito	理由 ^{りいう} に
de:äno	態 ^{おぼ} と	glato	無謝金 ^{むしやきん} に
futo	足 ^{あし} に	gledilo	大半 ^{たいはん}
läbo	幸 ^{さいはひ} に	nebuko	暗記 ^{あんき} して
leigo	(格別 ^{かくべつ} に ^{おあじ} 同 ^{おな} く) (公平 ^{こうへい} に)	nolo	知 ^し て
lepato	專一 ^{せんいつ} に	obo	私 ^{わたくし} の方 ^{ほう} に
mudo	大聲 ^{たいせい} に	patiko	詳 ^{くは} く
spido	急 ^{いそ} いで	penädo	記 ^し して
stepo	段々 ^{だんだん}	penedo	手紙 ^{てがは} に
vanliko	徒 ^{むだ} に	plobo	終 ^{おは} り迄 ^{まで}
voto	あいからべ	sägo	にも ^{おま} 及び
jeno	誠 ^{まこと} に	somo	其狀 ^{そのさま} にて
	確 ^{まこと} 不 ^ふ 確 ^{まこと}		
si	諾 ^{だく}	tadilo	反對 ^{さか} に
no	ぬ	zu	(其上 ^{そのうへ} 加 ^か 之 ^の み) らせ

leno.	どうもかい	kludo	夫故に それゆゑ
novego	どうしてもかい	sikodo	其理合にて そのりあひ
beno	宜しく よろ	liko	{ 何故に なにゆゑ 如何様に いかに
lebeno	大に宜しく おほいによろ	kikod	何迎 なにむかへ
aliko	是非 せひ	kimiko	何工合に なにぐあひ
deno	併し しあ	kimna	何度 なんど
ba	多分 たぶん	kiöp	其所に。何所に そこそこ
zelado	屹度。恰も きつど。あたかも	kiüp	何頃 いつ
	稽古問題 けいこもんたい		
dativön	{ 發明する はつめいする 發見する はつけんする	jul	學校 がくかう
dunön	致。その爲に いたす。ため	dilekel	長。校長 おんがう。がうぢやう
fögetön	忘る わす	plofed	教師 けうし
lenadön	學ぶ まなぶ	julel	生徒 せいと
lenunön	知らず しらず	klad	講習室 かうしゅうしつ
lödön	住す おほら	tidadüp	教科 けく
pledön	戯れ遊ぶ たわぶ。あそぶ	sugiv	學科 がく
spodön	通信する つうしん	pöp	紙 かみ

stadön	機嫌である でけん	nig	墨 すみ
vokön	招く。召ふ まね。よ	stib	鉛筆 えんぴつ

1. Plofed obsik okönom fovo gödelo, pos düp jölid.
2. Blod olsik no binom diso; klölob das egolom susi.
3. Elogob no nog semöpo julelis kels studoms so gudiko.
4. Dilekel e julels segoloms kobo selediko.
5. Ilenadob nebuko sugivi obik ab elögetob ya omi.
6. Elemobs togo pöpi, nigi e stibis.
7. Elenunom penedo obes das edatüvom fino velati.
8. Flens obik äklö loms begino das idunom desanö osi.
9. E-äkob no nog olse liko fat olsik stadom.
10. Elödob büo in dom kiöp Nelijels te äbinoms.
11. Tidadüps pogivoms glato utes kels viloms lenadön pükis.
12. If ästudols-la umo, äkanols-öv suno spodön volapüko.

譯文

- 一 私等の教師は是から朝八時後來るからん
- 二 汝等の兄弟の下に(下室)有らぬ私の上に(樓上)行きしと信ぜ
- 三 私の左様に宜く習ふ所の生徒と未だ何處にも見ざりき
- 四 校長と生徒の稀に共に出る
- 五 私の私の學科と暗記して學びより然るは彼と(其

れと)最早忘れさり

六 私ハ紙と墨と而して鉛筆と同時に買ふさり

七 彼の誠と終に發明せりと我等に手紙にて知らせさり

八 私の友人等ハ彼ガ(友人等と指そ)其れと態と爲し
さりしと始めて信せり

九 私ハ汝の父ハ如何に機嫌であるを未だ汝に尋ねざりき

十 私ハ英吉利西人斗り有りし其の所の家に先頃住ひけり

十一 學科の言葉と學ぶを欲する所の誰にも無謝金にて遣られるからん

十二 若し汝等ハより澤山に習ひしからば汝ハ速に世界語にて通信し能ひしであらう

第八章 しちやう

前置詞 ぜんち

本性語と他詞より變化語とを以て前置詞と爲す即ち下
ほんせいご と たいし へんくわご を つ ぜんち とし を おぼし め す こと

に之を掲ぐ これ か

本性語 ほんせいご

a	就き	ma	故に
al	に	me	にて

äl	方に <small>はう</small>	nebii	側に <small>そば</small>
bevii	間に <small>あひだ</small>	nen	無に。不 <small>なし</small>
bifü	前に <small>まへ</small>	ovii	其上に <small>そのうへ</small>
hüfü	以前 <small>いぜん</small>	pla	代りに <small>かは</small>
da	{ 貫いて。通し <small>つらぬ</small> <small>とほし</small> て。彼方此方 <small>あちこち</small>	plä	亦 <small>また</small>
de	の。より	plo	爲に <small>ため</small>
demii	譯にて。爲に <small>わけ</small> <small>ため</small>	plö	外に。外に <small>そと</small> <small>ほか</small>
des	より	po	後ろに <small>うし</small>
dis	中に。下に <small>うち</small> <small>した</small>	pos	以後 <small>いご</small>
disii	下に <small>した</small>	se	より
dö	就て <small>つ</small>	segun	通りに <small>ごよ</small>
du	間に(時間) <small>あひだ</small> <small>じかん</small>	sis	より(爾來の意) <small>いらい</small> <small>い</small>
dub	にて	su	上に <small>うへ</small>
fa	に	sus	上に <small>うへ</small>
in	に。中に。於て <small>うち</small> <small>か</small>	fa	向つて <small>むか</small>
jü	迄 <small>まで</small>	fo	雖も <small>いへど</small>
klü	因て <small>よつ</small>	ünü	真中に(時の) <small>まなか</small> <small>とき</small>
ko	{ 向て。と。俱に。 <small>むか</small> <small>と</small> <small>とも</small> に宛て <small>あ</small>	ve	沿て <small>そば</small>

kol	n	za	邊 ^〇 位 ^〇 頃 はどりぐらみころ
lä	側に そば	zi	周 ^〇 に まはり
leu	側に そば		

上に記せる語意の紛^〇りしきもの^〇と下に掲げ之^〇と解釋^〇を
かみしるごいまがらしもかこれかいかく

al n [に] と譯し [迄] の意あり
やくまでい

例^{れい}

golob	al	Paris	
行く私 ⁿ ゆかわたし	に	巴里 ^{パリ} ぱり	
Motävob	al	Täl	
旅 ⁿ を私 ⁿ たびわたし	に	伊太利 ^{イタリ} いたり	
Labom	slopi	al	nedut
持 ⁿ つ彼 ⁿ もつかれ	傾 ⁿ きと かたむ	に	懶惰 ^{らいだ} らいだ

(註 彼ⁿ次第ⁿに懶惰ⁿとある)
ちうかれしだいらいだ

äl n [に] と譯し [方に] の意あり
やくほう

例^{れい}

golom	äl	nolüd
行く彼 ⁿ ゆかかれ	に	北 ^{キタ} きた

in n [に] と譯し [中ⁿに] [於ⁿて] の意あり
やくちうおひい

例^{れい}

son	obik	lödom	in	Tokio
子 ⁿ こ	私 ⁿ の わたし	住 ⁿ を むら	に	東京 ^{トウキョウ} とうきやう
if	abinols-la	in	plad	obik
若 ⁿ し わ	有 ⁿ りし あ	か ⁿ ら ⁿ ば かみち	地 ⁿ 位 ⁿ ちゐ	私 ⁿ の わたし
	in	yun	omik	
	に	壯 ⁿ 年 ⁿ さうねん	彼 ⁿ の かれ	

bifü n [前] と譯し 即ち場所にての前あり
ま、やくばあばまへ

例^{れい}

spatom	bifü	dom
運動 ⁿ を彼 ⁿ うんどうかれ	前 ⁿ に まへ	家 ⁿ の いえ

po n [後] と譯し 是れ場所にての後あり
うしろやくとばしようしろ

例^{れい}

binom	po	yan
有 ⁿ る彼 ⁿ あかれ	後 ⁿ ろに うしろ	門 ⁿ の もん

büfü n [以前] と譯し 是れ時刻にての前あり
いぜんやくとじとくまへ

例^{れい}

ekömom	büfü	dels-jöl
來 ⁿ りし彼 ⁿ きたかれ	以 ⁿ 前 ⁿ に いぜん	八 ⁿ 日 ⁿ はち

pos n [以後] と譯し 是れ時刻にての後あり
いごやくとじとくのお

例^{れい}

omogolob 去ぬらん私の
 pos 以後に
 vakanüp 休みの

len n[側]と譯そ
 例

siedom 腰掛る彼の
 len 側に
 tab 卓子の
 binob 有る私の
 len 側に
 fin 終りの

(註 殆んど終りの意)

lii n[側と]譯そ是れ近接の意かり

例

lodob 住そ私の
 in 根岸
 Negishi

lii 側の
 Yokohama 横濱の

nebii n[側]と譯そ是れ添接の意かり

例

dom 家の
 omik 彼の
 binom 有る
 nebii 側に
 obik 私の

su n[上]と譯そ是れ或物と或る物の上に安置すると

きの上かり

例

pladols-öd 置け汝の
 häti 帽子と
 su 上に
 tab 卓子の

sus n[上]と譯そ是れ空天又の或物と離れる上かり

例

böd 鳥の
 flitom 飛ぶ
 sus 上に
 dom 家の

binos 有る
 sus 上に
 kapäl 知恵の
 obik 私の

(註 私の理解し能るざる事)

ovii n[上]と譯そ是れ或る物と或る物の上に觸れて動

くどきの上かり

例

dog 犬の
 gonom 歩く
 ovii 上に
 pon 橋の

de n[の][より]と譯そ

例

labob 持つ私の
 buki 書物と
 de の
 Hanasan 花さん

五 一 四 三 二
 elemob fladi de vin
 買ふさり私ⁿ 瓶と の 葡萄酒

四 一 三 二
 kömom de yang
 來る彼ⁿ より 獵

二 一 五 三 四
 de kim egetols penedi
 より 誰 買ふさり 汝等ⁿ 手紙と

dö n [就て] と譯そ是れ事に就ての意あり

例

五 一 四 三 二
 epükom dö flin obik
 嘯せり彼ⁿ 就て 友人に 私の

五 一 四 三 二
 epenom laltigi dö bolit
 書けり彼ⁿ 論と 就て 政治に

se n [より] と譯そ是れより去るの意あり

例

六 五 一 四 三 二
 no golol öd se eem olik
 ち 行く 汝ⁿ より 部屋 汝の

三 一 五 四 二
 söl at kömom se Kabe
 紳士ⁿ 是の 來る より 神戸

六 一 五 四 三 二
 esumom moni se nam obik
 取れり彼ⁿ 金子と より 手 私の

六十四

a n [就き] と譯そ是れ何程に就きの意あり

例

七 一 六 五 四
 givob ome yenis bals
 遣る私ⁿ 彼に 圓と 十

三 二
 a met
 に就き メートル

da n [通そ] と譯そ是れ彼方是方と通行そるの意あり

例

四 一 三 二
 gouom da süts
 歩く彼ⁿ 通して 町と

plo n [爲め] と譯そ

例

二 一 四 三 五
 plo kim buk at binom
 爲に 誰の 書物ⁿ 是の 有る

七 六 一 三 四 五
 li opükom plo u ta
 り 嘯そちらん 彼ⁿ 爲に 又ⁿ 不爲に

二 三
 ob
 私の

稽古問題

begön 願ふ bukatedel 書林

六十五

danön	謝 <small>いやく</small>	legivot	土産 <small>みやげ</small>
dledön	恐 <small>おそ</small> 氣遣 <small>きぢか</small>	yan	戸 <small>と</small>
falön	落 <small>おち</small>	litam	窓 <small>まど</small>
gekömön	歸 <small>かへ</small>	stul	椅子 <small>いし</small>
gonön	歩 <small>あゆ</small>	spatin	杖 <small>つゑ</small>
pladön	置 <small>お</small>	hät	帽子 <small>ぼうし</small>
seitön	掛 <small>か</small>	nam	手 <small>て</small>
topön	置 <small>お</small>	pon	橋 <small>はし</small>
valaclön	待 <small>まち</small>	flum	川 <small>かは</small>

1. Plofed obsik volapüka lödom po jul, nebü bukatedel.
2. Äspatom da Uyeno labol spatini in nam bal e häti in votik.
3. Oglob, pos muls anik al Kanagawa-len-Mel sogü flens kil.
4. Elogom omi, büfü vig bal, in süt sualik lä Gwaimujo.
5. Topol-öd su tab obik bukis kels binoms dis stul et.
6. Of-blod obik binof patopöl bifü Tälel, bevü Lasänel e Nelijel.
7. Ogekömob oyelo e oblibob ko ols du vigs tel u kil.
8. Esagom das ivaladom lonedo dis litams cema obsik.

9. Efalom se litam su pösods tel, kels äpiükoms kobo len yan doma omik.
10. No gonol-öd ve flum, dlebob das ofalol in vat.
11. Danob oli milna plo legivot jönik keli esedol obe.
12. Begob oli no segolön nen ob; ogolob al bukatedel sembal in Ginza.

譯文

- 一 世界語の私等の教師の學校の後ろ書林の側に住ふ
- 二 彼の片手に杖を而して別に(即ち片手)帽子を持ち上野を通ほして運動せり
- 三 私の三友人を誘ふて多少月(二三ヶ月のこと)の後海の側の神奈川に行きぬらん
- 四 彼の一周間前に外務省の側の小き町に彼を見さり
- 五 汝等の彼の椅子の下に有る所の書物と私の卓子の上に置け
- 六 私の女兄弟の魯人と英人の間伊太利亞人の前に置かれて有る
- 七 私の來年歸りぬらん而して二又の三週間汝と居るからん
- 八 彼の私の部屋の窓の下に長く待さりしと言ふさり
- 九 彼の私の家の戸(門)の側にて共に咄しゝ所の二人の上に窓より落さり
- 十 汝の川に沿ふて歩くる私の汝が氷の中に落るから

んと恐る

士 私に汝が私に送りし所の奇麗ある土産の爲に千度
汝に謝を

士 私に私無しに出ぬと汝と願ふ私の銀座に於ての或
る書林に行きぬらん

他詞より變化語

他詞の語尾に ii の后置字と附加して前置詞と爲す

ataflanü	是方に このほう	nekonsidü	去れども さ
etaflanü	彼方に あのほう	nemü	名義に めいぎ
bidü	状に さま	nilü	近くに おか
böladü	支出 しいゆつ	nilumü	大に近に おほい おかく
büdü	注文に ちうもん	nilünü	最も近に もつと おかく
dalü	許にて ゆるし	pladalü	代に かはり
danü	恵みに謝禮に めぐ しやうらい	pöfidü	収入 しやくにふ
defü	過ちにて あやま	pötü	機に折に をり をり
detü	右に みぎ	suämü	合計にて あひけい
esü	利益に りやく	sumü	除きて のぞ
flanü	方に ほう	sogü	共に ども
gouü	徳義に とくぎ 恩に めぐみ	stabü	故に ゆゑ
		stimü	擧に あたま

kalü	拂に はらひ	sukü	隨從にて ずいじゆう
kanü	因て よつ	tefü	者 は
kodü	道理に だうり 譯に わけ	timü	頃 ころ
		tonü	如く ごとく
komitü	方より ほう	visü	眼前に がんぜん
komü	目前にて もくぜん	yufü	助力にて じゆりき 助けに たす
lenlogü	因く よつ		
linü	周に まわり	zenodü	真中に まんなか
modü	状に さま	nedetü	左に ひだり
稽古問題			
vobön	働く はたら	mens	人 ひと
kovobön	共に働く ども はたら	lasam	集會 しふくわい
sumön	取る と	bisiedel	支配長 しはいちやう
lensumön	受取る うけと	kopanal	會員 くわいめん 社員 しやくめん
sesumön	殘る のこ		
mosumön	取除ける とりぞ	gased	新聞 しんぶん
siedön	腰掛る こしかけ	kodöt	行 おこなひ

bisiedön	支配 <small>しはい</small> する	bad	悪 <small>あし</small>
jokön	推 <small>おし</small> す	din	物 <small>もの</small>
fejokön	推出 <small>おしだ</small> す	sten	點 <small>てん</small>
	擯斥 <small>びんせき</small> する		
		neif	庖刀 <small>はうちやう</small>

1. 'Tonü kelosi sagols bäledikün kopanalas ebisiedom lasami.
2. Flens obik valik, sumü Ito ekovoboms lonedo in gased at.
3. Esagon obe das äsiedom ataflanü tab, detü bisiedel.
4. Elensumob franis at balsmil komü pösods tel; kalü dilekel obsik.
5. Pastimom e palöfom fa valiks; kels voboms ko om.
6. Edunobs atosi gonü flen olik e stimü fat omik.
7. Pefejokom fa flenis omik valik kodü kodöt omik badik.
8. No ekanobs lemön legivotis jönik, defü tim e mon.
9. Emosumob stenis anik se buk at yufü neif.
10. Pükols bidü mens kels estudoms nevelo pükis.
11. Esumob dinis mödumik se cem olsik, dalü mot olsik.
12. Li egepükom ya penede keli epenols ome, pötü nulayel.

譯文

- 一 汝等が言ふ所の者の如く最も老なる會員の集會と支配せり

- 二 私の皆の友人の伊藤を除きて是の新聞に長く共に働けり
- 三 彼の卓子の是の方に支配長の右に腰掛しと私に言ふさり
- 四 私の私等の長の拂に二人の目前にて是の十千(一萬)ヲラックと請取れり
(註 或所より私らの長への拂渡金と私請取との意あり)
- 五 彼の彼と働く所の皆に責べれ而して愛せらる
- 六 私等の汝等の友人の恩に而して彼の父の譽に是を爲しさり
- 七 彼の悪き彼の行ひの譯にて皆の彼の友人に推出されさり
- 八 私の時と金の誤ちにて奇麗ある土産と買ひ能わざりし
(註 時の暇を得て且金子を持さざりし故に土産と買ひ能わざりしの意あり)
- 九 私の庖刀の助けにて是の書物より多少の點と取除けさり
- 十 汝らの言葉と何時も學ばぬ所の人の狀にて咄せ
- 十一 私の汝の母の許にて澤山の物と汝の部屋から取れり
- 十二 彼の新年の折り汝等が彼に書きし所の手紙に最早返事せしり

第九章

接續詞

接續詞の本性語のみを用ひ他詞より變化語なきと法と

そ

ab	然るに	if	若し
	しか		あらば
äd...äd	も	ifi	若しも
(是も彼も等の如く並べ言ふ ときに用ふ)		jüs	迄
ka	より(比較)	as	如く
	ひから		
ua	後に	äs	如く
	のち		ごと
(卒業の後に歸國する云 々等の後あり)		bi	因て
			よつ
büfo	以前に	ni	でもかい
	いぜん		
das	と事と	plas	代りに
	こと		かは
dat	爲に	pläsisf	されば
	ため		ねば
do	雖も	sis	より
	いへど		
du	間に		(爾來の意)
	あひだ		いらい
dü	さうら	sosüs	次第に
			しだい

七十二

e	與りして	u	又
	と		また
falo	將又	ünä	内に
	はたま		うち
	若く		
	もし		
i	及び	va	歎
	および		かゝ
ibo	故に	ven	後に
	ゆゑ		のち
			時に
			とき
ibö	其爲に		
	そのため		

上に記す語意の紛らしきものと下に於て例解す

六	kiödon	五	das	四	binom	三	liegik
	信ぞ誰も		と		有る彼		富んで
	しん		だれ		あ		かじ
五	binoi	四	smalikum	三	ka	二	ol
	有る汝		より小		より		私
	あ		あんぢ		おひさ		わたし
五	olilalob	四	if	三	vilols		
	讀ませう私		あらば		欲そ汝		が
	よみ		わたし		ほつ		あんぢ
六	no	五	nolob	四	va	三	binom
	ぬ		知ら私		かゝ		有る
			し		わたし		あ
							是處に
							ここ
七	säkol-öd	六	ome	五	va	四	osegolom
	尋ねよ汝		彼に		か		出ませう彼
	たづ		あんぢ		かれ		わたし
三	suno						
	速に						
	はや						

七十三

稽古問題

blinön	持來る <small>もちきたる</small>	vol	世界 <small>せかい</small>
geblinön	持出る <small>もちだす</small>	tal	地 <small>ち</small>
polön	運ぶ 持ち行く <small>はこぶ</small>	lan	國 <small>くに</small>
lovepolön	翻譯する <small>ほんやく</small>	slopel	同意者 <small>どういしや</small>
dalön	許る <small>ゆる</small>	volapükel	世界語者 <small>せかいごしや</small>
sekusadön	免る <small>ゆる</small>		(世界語と解する人) <small>せかいごかいしや</small>
sibinön	有る <small>あ</small>	ladet	名宛 <small>なあて</small>
(必要有の意) <small>かひら ある い</small>		pot	郵便 <small>ゆうびん</small>
sükön	捜る <small>さぐ</small>	potacal	郵便局 <small>ゆうびんきょく</small>
lävön	旅する <small>たび</small>	potakad	郵便端書 <small>ゆうびんはびき</small>
vedön	成る <small>な</small>	gälod	樂み <small>たのしみ</small>

1. Bi no äsevob ladeti olik, no ekanob penön ole.
2. Aikelosi sagols-la; slopals Volapüka sabinoms in läus valik vola.
3. If dunol äs nilel olik, ovedol nevelo liegik.
4. Osedob potakadi ole, sosus ugetob canis.
5. Mütolts polön penedi at al potacal büfo fat obik ugekömom.
6. Ven onolols spodön volapüko (pükiko), ogivob olse

la·letis volapükelas amik.

7. No etvob blods olik, do esükob omi in süts valik zifa.
8. Vobob vädelo düps jöl, sis lödob in Tokio.
9. Du otävöl da Deut, olovepolob buki at in pük neljik.
10. Begob oli sekusadön obi ibo no elabob timi kömön sunumo.
11. Logob ko gälod das estudol vemo gudiko na esegolob.
12. Säkol-ös ome va vilom dalön obes gekömön odelo vendelo.

譯文

- 一 私の汝の名宛と知らざりしに因て汝に書き能はざりし
- 二 汝の何と言ふても世界の皆の國に於て世界語の同意者が有る
〔原字 la と(ても)と譯を矢張假定の意を合む〕
- 三 汝の汝の隣人の如く爲さからば汝の何時も富まぬであらう
- 四 私の反物と貰ひ次第に汝に端書を送りませう
- 五 汝の私の父が歸りませう前に是の手紙を郵便局へ持行きねばあらぬ
- 六 汝の世界語にて通信するを知る時に私の多少の世界語人の名宛と汝に遣りませう
- 七 私の町の皆の本通に捜せしと雖も汝の兄弟と拾はざりし〔拾はざりしとの見當らぬの意あり〕
- 八 私の東京に住るより八時間毎日働く

- 九 彼が獨逸の彼此に旅しませう間に私の是の書物と英語に翻譯しませう
- 十 私のより速く来る時と[時の暇あり]持たざりし故私を免そと汝に願ふ
- 十一 私の汝が私の出し後に大層能く習ひし事を樂みと見る[私の共に樂むの意あり]
- 十二 汝の彼の明晩歸ると私等に許そと欲そるう彼に尋ねよ

第十 章
投問詞

投問詞の本性語と他詞の語尾にのの後置字と結び付けて投問詞と爲し之を用ふると法とそ

n	噫嘻	milö	えい(憤怒の發聲)
adyö	さよから(告別)	o	おやあら (不意驚駭の發聲)
ag	扱々(愁歎の發聲)		
ö	はあ(歎美の發聲)	bafö	うまい(喝采)
sö	しい(警戒の發聲)	eko	あれあれ (不意と指す發聲)
stopö	止めよ		
fi	せうして(叱咤)	spidö	はよ(促急)
hiedö	可愛そうに	takedö	黙まれ
lü	かゝい(呼招の發聲)	yu	助けよ

稽古問題

masel	主人	vob	働
gadel	植木人 (植木業の人)	leblam	谷め
nedutel	懶惰者	dib	深し
sol	日	melidön	價そる
jad	影	belitön	照らそ
bim	樹	slipön	眠入る
timil	少時	seitönoki	臥そ
solat	兵卒	sufad	辛抱
glöb	丸	pok	カクシ(衣服の)
malädöp	病院	konsien	本心
hiedön	痛む	sanön	全快そる
fetanön	巻く	vun	傷
sevokön	酔ふ	sanel	醫者
tigap	足	vunasanel	外科醫

1

Gadel, kel no älöfom vobi, iseitom oki in
jad bima e äslipom dibiko.

Masel omik anakömom in timil at e ümekom leblamis ome, sagöl: o nedutel no melidol das sol belitoni oli”

O votik ägesagom: “binos ebo demü atos, das eseitob obi in jad.

2.

Solat, kel pivunom len tigap dub glöb päpolom in malädöp. Vunasanels äsükoms konsieniko glöbi du dels tel.

Solat, kel äliedom mödo, äjölüdom fino sufadi e äsükom omes kikod no äfetanoms vuui omik. Binol-öd sufadik” sanels ägepükoms; sükobs glöbi. Milö pevunöl äsevokom, kikod no esagols sunumo atosi? labob omi in pok obik.

譯文

壹

働きて好うざりし所の植木人の樹の影に臥し而して深く眠入れり彼の主人が是の少時に(間もあく)來り而して彼に(植木人)咎めとあしオヤ懶惰者よ日汝と照らふ事の價あらぬと言ふ所で彼の(植木人)アラ、影に臥せし事の丁度譯で有ると別の返答せり

(植木人返答の意い價あきと知る故に影に臥せし云々也)

貳

丸にて足側に傷つけられざりし所の兵卒の病院に運べられざり外科醫の二日間丸を注意して捜し澤山痛みし所の兵卒の終りに辛抱を失へり而して彼の(兵卒)何故に彼の(兵卒自身を指す)傷を巻うざりしと彼に(外科醫)尋ねし汝辛抱有れよ私の丸を捜せと醫者返答せり傷つけられし所で彼(兵卒)叫ぶエイ、何故に汝の是と(其事と)より速く言ひざりし私の私のカッラの内に彼と(丸を)持つ

第十一章

世界語文法の名詞を以て根語と爲し其の根語に后置字と附加して働詞副詞形容詞等に變化せしめ其の根語に前置字或は后置字を附加せると名詞と二個連綴せるとに因て意味の異なる名詞に變化せしむるを得故に其根語たる名詞の出來可だけ短綴音を以て名詞と爲せり此の如く名詞の附加字と要するの法あるが故に總て名詞の綴字の子字を以て始終と爲せ然して其の前置字の母字を以て終と爲し其の后置字の母字を以て始と爲せ

是れ音響と清妙にあさんが爲あり
こ ねんきやう せいめう ため

名詞より動詞副詞形容詞に變化せるの例と下に掲ぐ
なごし ぶごし よくし けいようし へんくわ がい しも がい

名詞	動詞	副詞	形容詞
klän	klänön	kläniko	klänik
密	密にぞ	密に	密ある

名詞の綴字の子字と以て其の始終と爲その例
なごし せつじ しじ もつ そ しじろ かい

sol	klif	ston	nat
日	岩	石	性質
ひ	いほ	いし	せいしつ

前置字の母字と以て終と爲し後置字の母字と以て始と
ぜんちじ ぼじ もつ おはり かい とうちじ ぼじ もつ はじめ

爲その例と下に掲ぐ
かい がい しも がい

前置字例
ぜんちじ じ がい

pä-logom
見られる
か

pe-logom
見られけり
か

po-logom
見られるからん
か

前置字或は後置字と附加して意味の異なる名詞と組立
ぜんちじ ちあるじ とうちじ よか いか こと がいし ぐかたつ

るの例と下に掲ぐ
がい しも がい

後置字例
とうちじ じ がい

前置字例
ぜんちじ じ がい

後置字例
とうちじ じ がい

glum-ik
鈍き
にぎ

glum-ön
鈍くそる
にぎ

glum-ün
より鈍し
にぎ

tidel
教師
けうし

tid n 讀也 el n 人と
意味せる後置字也
ひか ごとくあり ひと ことおじ あり

dünan
給仕人
きうじにん

dün n 爲也 an n 人
と意味せる後置字也
かた ことおじ ひと ことおじ
 el an の區別等
 字林後置字附加法
 の部にて詳説すべし
じりん とうちじ じふ かい ほん べし しやうせつ

labam
所有物
しやうぶつ

lab n 持也 am n 物
と意味せる後置字也
もち もつ もの ことおじ

godav
神學
しんがく

god n 神也 av n 學術
と意味せる後置字也
かみ じんせい ぶつがくしゆつ

名詞二個と連續して意味の異なる名詞と組立るの例と
ご ねんせい いか こと こと ぐかたつ がい
 下に掲ぐ而て其の二個と連續せるに其の中間常に n
しも がい こと ねんせい こと ちゆうかんづね

begivön
遣る
や

belifou
活ろそ
い

be の前置字 n 其の
根語の意と強む是れ
こんご がい つよ と
 漢文熟字の然乎等の
かんぶん じやくじ ぜんこ ちやう
 如し且又自動の語に
ごと かつまた じどう こと
 be と附加されば他動
べ と かつま べた だどう
 の語に變化そ
こと へんくわ

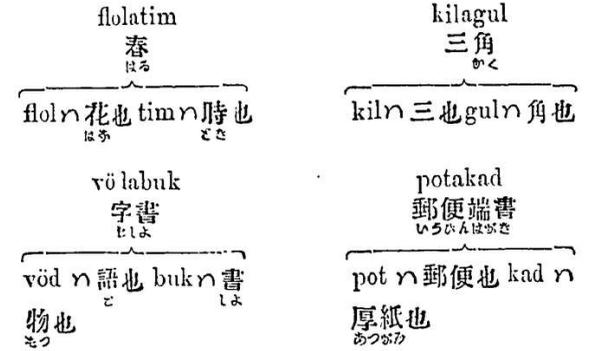
sased
輸出
しゆしゆつ

sed n 送る也 se n 出
そと意味せる前置字也
かき だ いか

tapük
駁論
はくろん

pük n 言也 ta n 向
ふ或は匹敵と意味
いご いたい ぐんたい いか
 せる前置字也

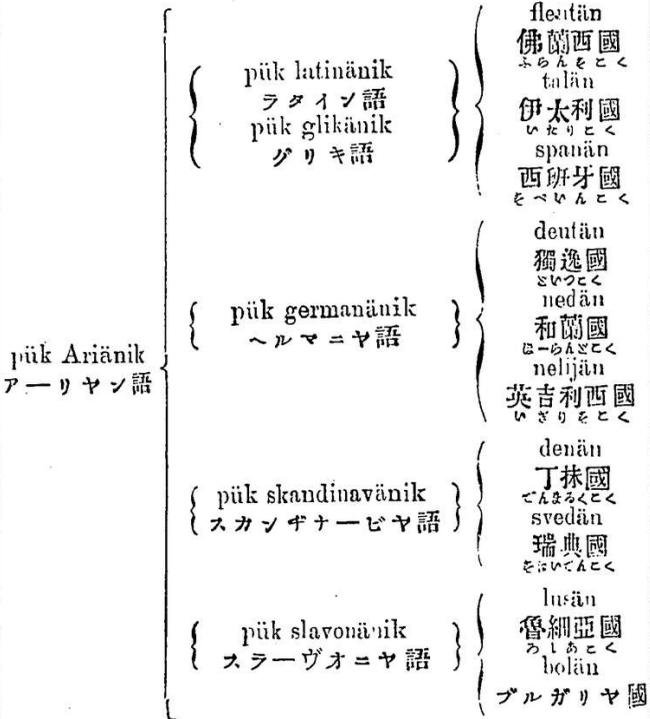
の字と挿綴するものとそ



世界語法の上に掲ぐる如く便利ある組立法有るが故に
 其の根語と學ぶこと少くして説話文書上數倍の活用と
 爲すと得るものあり
 是より世界語の如何ある語と基礎と爲し之と組立しや
 と説らん抑もシユライエル氏のヴオラピウキクと創作
 するやアーリヤン語と取調べ其の簡綴穩當ある語の其
 儘之と採り其の煩綴ある語の刪綴して之と用ひ且大に
 自己の新作語と加へて遂に世界語と創作せり而るに世
 界語の發音の一字一音且無音なきと以て法と爲そが故
 にアーリヤン語と其儘採用せし語にても其の發音の其
 儘之と用ひざるあり

八十二

アーリヤン語の歐米各國語の起源にして其語より漸次
 歐米各國語に分岐せしものあり茲に其の表と掲ぐ



アーリヤン語より採用せし語と自己の新作語とを一語と

宛下に掲ぐ
 佛語 denu 復 獨語 nebü 側
 よつご また ごとく そば

八十三

伊太利	eko	見よ	和蘭	nu	今
<small>いたり</small>		<small>みよ</small>	<small>わらん</small>		<small>いま</small>
西班牙	segun	如く	英吉利西	fid	食物
<small>せべいん</small>		<small>ごとく</small>	<small>いぎりど</small>		<small>しょくもつ</small>
魯細亞	ibo	故に	自己新作	bal	壹
<small>ろしあ</small>		<small>ゆゑに</small>	<small>じこしんさく</small>		
				kil	貳

アーリヤン語と補綴或は省刪せし例と下に掲ぐ

世界語	原語
fem 沸 <small>わ</small> キ上 <small>あ</small> ル <small>う</small> <small>う</small>	fermentation
pat 詳細 <small>しやうさい</small>	particularity
lindif 無 <small>む</small> 願 <small>げん</small> 着 <small>ちやく</small>	indifference

版權登録

版權
所有

明治廿一年十月二日印刷
同 年十月五日出版

著 者

版權所有者

發 行 者

印 刷 者

定價金三拾錢

和 國
ワ ン デ ル ヘ イ デ ン

高知縣士族
佐々木隼士

神奈川縣久良岐郡中村
千四百六拾九番地寄留

神奈川縣平民
松 下 包 次 郎

神奈川縣橫濱區辨天通
四丁目六十三番地

東京橋區銀座
一丁目一番地
山 森 諦 順

發 行 所

丸 屋 書 店

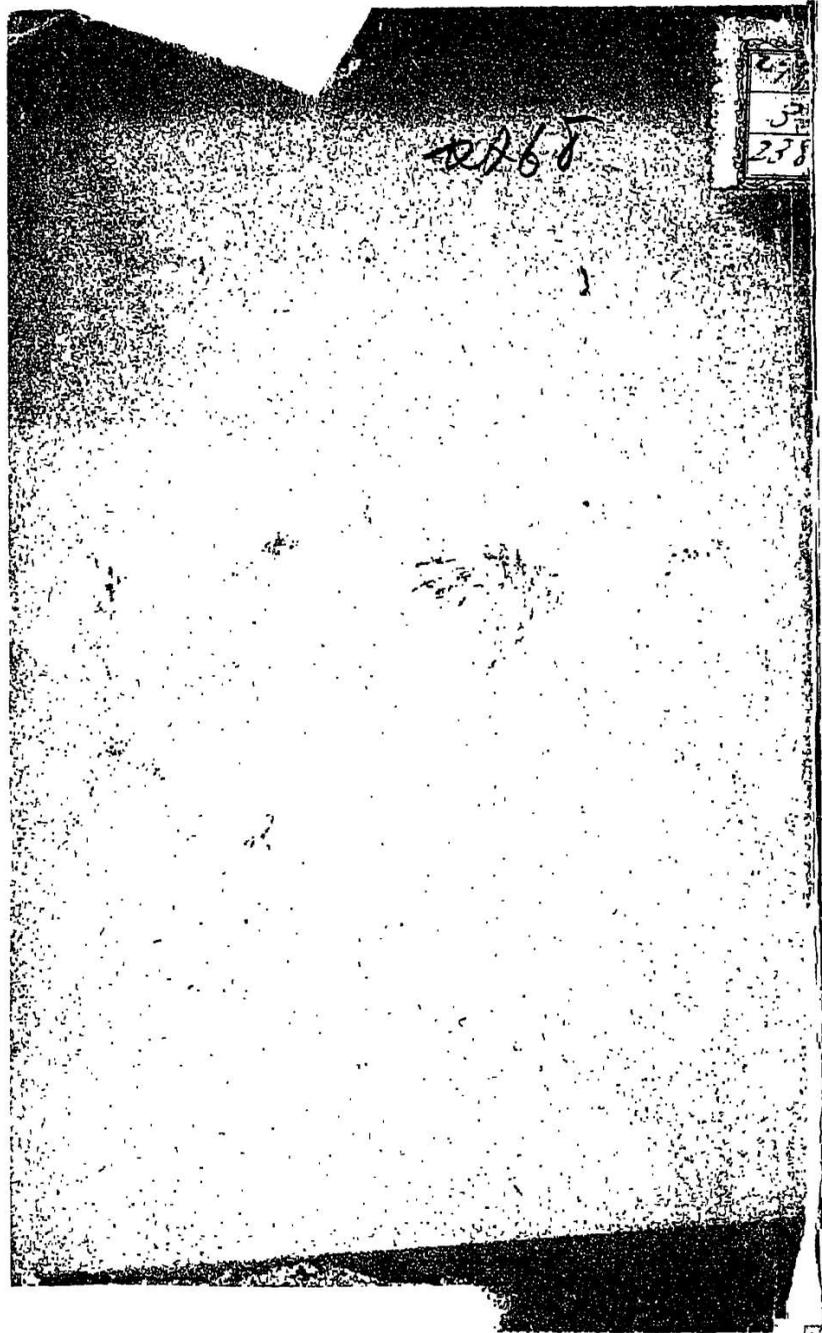
神奈川縣橫濱區辨天地
四丁目六十三番地

丸 屋 書 店

大坂東區心齋橋通
北久寶寺町四丁目

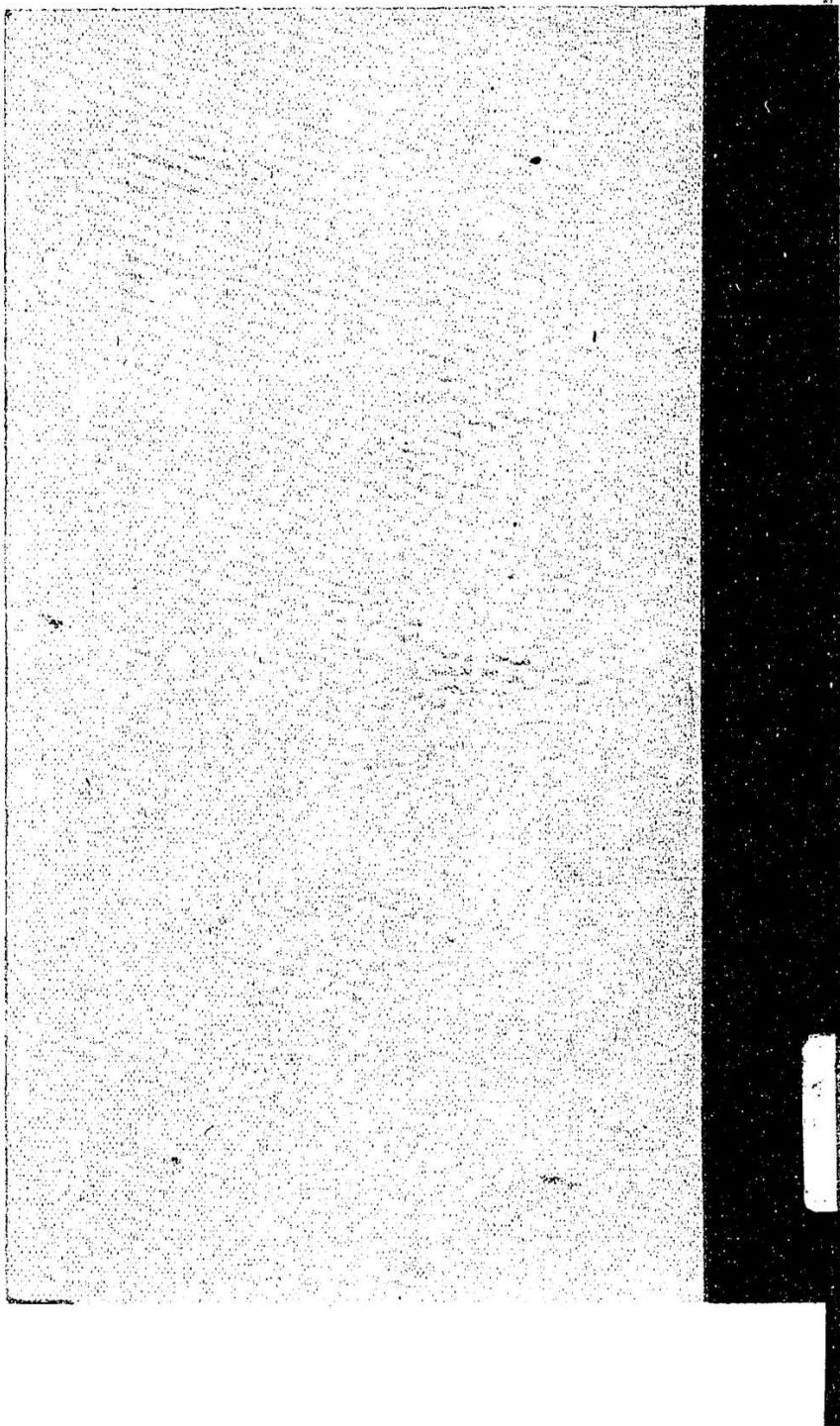
丸 善 書 店

東京日本橋區通
三丁目拾四番地



238

10268



084663-000-2

特30-18

世界語文典和訳

ケルクホーフス/著

M21

DAL-0015

